政府、地方公務員に対し、国に準じた措置（平均7.8%カット）を事実上の強制！

高校神奈川
発行人　園部　守
編集人　中尾　光信
横浜市西区藤棚町2の197
高校教育会館内
TEL　045(231)2479
FAX　045(231)2536
http://www.fujidana.com

地方独自のとりくみには配慮せず「給与引き下げ実施時期は7月から」

神奈川県では、2012賃金確定闘争の結果、2013年4月から臨任・非常勤・再任用を除く職員の4%の給与カット（管理職は6%）が実施されるところとなります。

しかし、政府は2013年1月24日、地方公務員給与について、地方独自のとりくみには配慮せず、さらに国に準じた措置（平均7・8%カット）を講じるよう要請する事を閣議決定しました。この内容がそのまま適用されると、「4%＋平均7・8%」がカットされることになります。

神高教はこの閣議決定は全く容認できないものとし、連合・公務労協・日教組に結集し、撤回に向けたとりくみを強化していきます。

2012賃金確定闘争妥結後、間もない発表

神奈川県では、2012年9月20日から始まり11月15日に妥結した2012賃金確定闘争の中で、2013年4月から2年間の4%給与削減（管理職は6%）をはじめとした内容を確認、その内容は非常に厳しいものですが、対等な労使交渉を重ねた上での決着でした。

しかし、1月24日、政府は、閣議決定した「公務員の給与改定に関する取扱いについて」の閣議決定を強行しました。

地方公務員への賃金カットを強制

閣議決定は、①国家公務員給与の削減実施時期は7月からとし、さらには地方交付税・臨時財政対策債上の地方公務員の給与削減総額9000億円分を、地方の防災・減災や地域活性化事業として優先的に実施するとしました。地方公務員給与引き下げ強制に反対し、地方で自主的に決定できるようとりくみを強化していくことを提起しました。

この閣議決定が神奈川県にも波及することは必至です。神高教は日教組の要請をうけ、総務大臣に対して、「地方の努力と地方自治を踏みにじる地方公務員給与引き下げ強制に反対。閣議決定の撤回を求める」「人事院勧告取扱いの閣議決定のやり直しは極めて遺憾であり、高齢層の昇給を抑制するための給与法改正に反対する」旨の文書を送付しました。

神高教は引き続き、県段階では県労連、国段階では連合・公務労協・日教組に結集する中で、政府に閣議決定の撤回を強く求めていくと同時に、広く世論形成を図っていく必要があります。

地方自治の否定に県当局も抗議

黒岩知事及び神奈川県市町村会は、「国の地方公務員給与削減要請に対する緊急声明」を公表し、地方交付税の削減による地方公務員の給与削減の強制を撤回することを総務大臣に求めました。

このような動きを全国的に広げていくことが必要です。

2013春闘にむけては、連合に結集し、民間の労働者と連帯し、賃金の引き上げを追求していく必要があります。意思統一を図り、とりくみを強化していく目的で、神高教は2月23日の分代の後、公務労協・公務員連絡会副事務局長の藤川伸治さんを講師に、「地方公務員賃金カット強制反対意志統一集会」を行いました。

地方の努力と地方自治を踏みにじる内容

これに対し、公務員連絡会は声明を発し、①政府決定の方針を2ヶ月で変更したことは極めて遺憾であること、②多くの地方自治体では、厳しい独自削減を実施してきており、地方公務員給与の減額強制は言語道断であることなどを指摘し、今後、①国会で今回の措置の問題点を追及すること、②地方公務員給与については、国による地方公務員給与引き下げ強制に反対し、地方で自主的に決定できるようとりくみを強化していくことを提起しました。

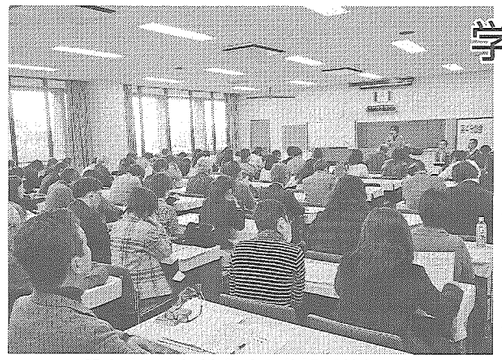
職場からのたたかいを

神高教は連合、公務労協、日教組に結集し、2013春闘のとりくみとして、政府による地方公務員の賃金カット強制反対のたたかいを展開していくこととし、各分会からのとりくみもスタートしていくこととします。当面のとりくみとして、大型ハガキ行動、職場集会を行います。

神高教はこの閣議決定に対し撤回に向けたとりくみを強化していきます

学外組織と連携することの重要性が浮き彫りに

横浜分会（定時制）の鳥山洋さんらが報告


第4分散会には多くの参加者があった

●「神奈川県人権教育研究大会」開催

標記の研究大会は12月26日、江ノ島の女性センターで開かれた。高教組も構成団体となっている神奈川県人権教育推進協議会が毎年開いているもので、今年度で11回目の開催である。

第4分散会の2本のレポートうち一つは、横浜翠嵐高校定時制からの報告である。「多文化教育コーディネーター制度を元にした外国につながる生徒支援の取り組み」というもので、報告されたのは同校の鳥山洋さんと、NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ（略称MEI-net）の武一美さんである。

「多文化教育コーディネーター」という、多くの人にとっては耳慣れない制度が、何時どのように県の事業として整備されるようになったかについて、最初に武さんより報告があった。MEI-netを中心に「日本語を母語としない人のための進学ガイダンス」を全国に先駆けて実施したのは95年のことである。その取り組みのフォローが必要ということから、県とMEI-netの協働事業として「多文化教育コーディネーター」を高校現場に派遣する取り組みが開始される。コーディネーターは各校の実情に応じて必要とされる人材を送り、各校に在籍する日本語を母語としない生徒の学校生活をサポートする。たとえば、教科の母語による補習であったり、保護者との面談支援などである。この制度は年を追って充実してきており、4校で始まった取り組みであったが、現在は15校に導入されている。

07年に4校導入された中で唯一、定時制で導入された学校がある。横浜翠嵐高校定時制である。鳥山さんからの報告は、外国につながる生徒がどのように増えていったのかを出発点にして、コーディネーターが導入されて以降、生徒が活き活きと活動している様子を、全日制と同時に開催される文化祭での様子や、入り込み授業の取り組みなどを通して語られた。また、日本語を母語としない生徒にとって、母語話者によるフォローが、生きる意欲をどれだけ強いものにするか、家庭とのコミュニケーションをどれだけ深いものにするかも、具体的な事例を通して語られた。それらは、部落問題に関して造詣の深い鳥山さんならではの説得力を持った語りであった。報告は日の当たる面だけではなく、日本語を母語としない生徒が急増していくことに対する職員の戸惑い、困惑などにも及び、率直なものとなっていた。

会場には、全体会の講師であるリリアン　ハタノ　テルミさんも顔を見せており、質疑は殆ど翠嵐定時制に集中した。中でも、学校と学外の組織が連携して教育活動を行うことの重要性が浮き彫りにされた。高校の教員の「こんな取り組みこそ求められている。県はもっと予算をつけるべき」という意見が印象的だった。

「でこぼこイレブン　チームでいこうよ」白崎裕人さん（愛川分会）紹介

今回受賞した白崎さん

爽快感のある印象深い作品。魅力たっぷりの登場キャラ・秀逸な構図・文学を思わせるストーリー。組合活動も「チームでいこうよ！」と絵本から鼓舞される感あり。公務員（事務）作家デビューで、ブレーク間違いなし！